

保健所地域保健課作成

人工透析実施医療機関への災害時対応に関するアンケート調査について

【課題】

人工透析患者は週 2～3 回、血液透析を受けなければならないが、災害時においても透析を受け続けられるような体制を整える必要がある。

【ねらい】

大規模災害によりライフラインが被害を受け、電気及び水の供給が不足または途絶した場合にも、できるだけ治療を続けられるように、自家発電装置の準備等の医療機関独自の取組状況を把握するとともに、同時に市に求める支援内容を知ること、災害発生時の有効な対策を講ずることが可能になる。

【調査対象】

管内 5 病院及び 2 診療所（うち、茅ヶ崎市内は 5 病院、1 診療所）

医療機関名	所在地
医療法人徳洲会 茅ヶ崎徳洲会病院	茅ヶ崎市幸町 1 4 - 1
湘南東部総合病院	茅ヶ崎市西久保 5 0 0 番地
茅ヶ崎新北陵病院	茅ヶ崎市行谷 5 8 3 - 1
茅ヶ崎中央病院	茅ヶ崎市茅ヶ崎 2 - 2 - 3
茅ヶ崎市立病院	茅ヶ崎市本村 5 - 1 5 - 1
医療法人社団茅ヶ崎セントラルクリニック	茅ヶ崎市幸町 6 - 1
とよじメディカルクリニック	高座郡寒川町岡田 1 1 7 0 - 1 R i d e a u 1 F

【調査項目】

- 透析患者の人数
- 稼働可能日数
- 災害時のマニュアルの有無
- 災害発生時の患者確認・連絡方法
- 災害時の対策（電気・水道・その他のライフライン）
- 自施設での治療継続が不可能になった場合の対策
- その他の対応・課題等

【調査結果及び考察】

- ・災害時のマニュアルは全ての医療機関で作成されていた。
- ・広域災害救急医療情報システム (EMIS) の訓練に未参加の医療機関が 2 機関あった。

- 電気については、2 診療所を除く 5 病院は停電時の対策として自家発電装置を備えている。
- 水道については、1 診療所 1 病院を除く 1 診療所 4 病院は断水時の対策として貯水槽を備えている。
- その他器材については、3 病院が災害対策用として3 日分相当を備蓄している。
- 自施設での透析治療が不可能となった場合の対策としては、同一法人が運営する病院については、関連する系列病院と連携体制を構築している。2 診療所については神奈川県西部腎不全災害研究会のシミュレーションした連携体制に則るとしている。
- その他の対応では、自施設の透析治療の継続が不可能となった場合の患者移送の動線及び移送手段の確保やライフラインの寸断が長期化した場合の発電燃料の確保に課題を残す等の回答が寄せられた。

EMIS 入力訓練に未参加の医療機関に訓練への参加を促すとともに、EMIS の運用のみならず、大規模災害時における医療機関の業務継続計画（BCP）に頼る以外に電源車両による電力や水道水の優先的供給を関係部署と連携し、実行することにより災害で失われた医療機能の早期の回復を目指す必要がある。

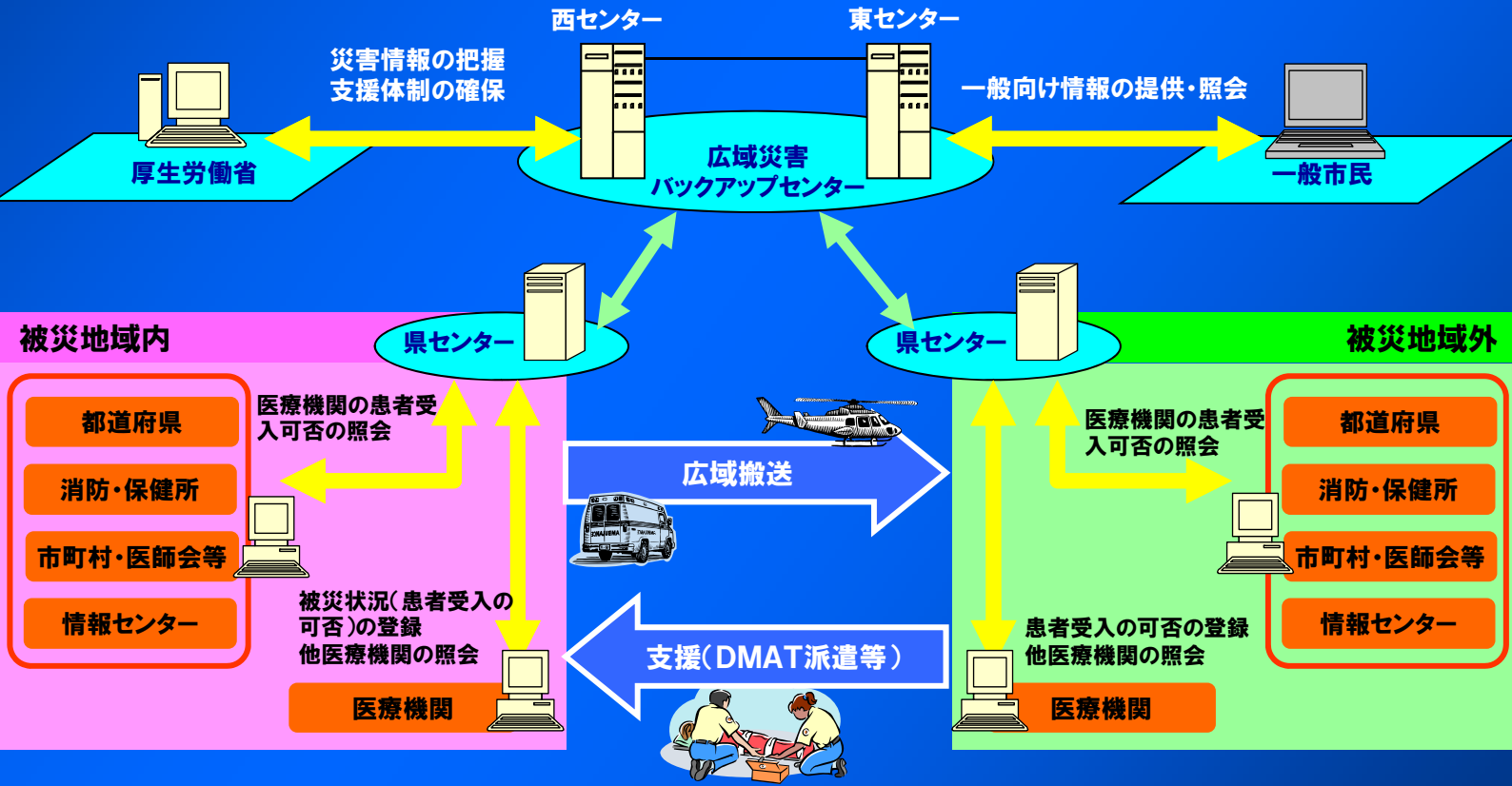
広域災害救急医療情報システム(EMIS)

Emergency Medical Information System

システム概要

災害時に被災した都道府県を越えて医療機関の稼動状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速且つ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としている。

- 各都道府県システムにおける全国共通の災害医療情報の収集
- 医療機関の災害医療情報を収集、災害時の患者搬送などの医療体制の確保
- 東西2センターによる信頼性の高いネットワーク構成
- 平常時、災害時を問わず、災害救急医療のポータルサイトの役割



- 災害時に最新の医療資源情報を関係機関(都道府県、医療機関、消防等)へ提供
- 超急性期の診療情報(緊急情報)を即時に集約、提供
- 急性期以降の患者受入情報(詳細情報)等を随時集約、提供
- DMAT指定医療機関から派遣されるDMATの活動状況の集約、提供

<http://www.wds.emis.go.jp>